

Hokuriku PC Press

1997- 4- 1

第 27 号

発行責任者 三菱電機株式会社 北陸支社 コンピュータ課 稲崎義明

W i n d o w s N T 4 . 0 に つ い て (5)

(Windows NT 4.0 のユーザインターフェースについて)

Windows NT 4.0 の最大の特徴としてよく触れられるのが Windows 95 とのユーザインターフェースの統合です。外見的には Win 95 と同じとなるわけですから、「ネットワークに強い 95」という面もあるわけですから、使い勝手の面でどうなったかを見てみます。

まず、タスクマネージャですが、Windows 3.1 でもタスク（アプリケーション）を切り替える事ができるものとして使う事ができましたが、NT 4.0 ではプロセス状態の表示やパフォーマンス監視機能が追加されました。プロセス監視機能では、プロセス（常駐プログラムなど）の CPU 状況や CPU 使用時間、メモリ使用量などが表示でき、トラブルが発生した場合に問題のプロセスだけを終了させることができます。パフォーマンス監視機能では、CPU とメモリの利用状況がチェックできます。

次にエクスプローラですが、これはまったく Win 95 と同じ機能を持っていますので、ネットワーク運用としては同じファイル管理ツールで管理する事ができるようになりました。

NT 4.0 はネットワーク OS としての面があることから、ネットワーク関連機能を管理するためのツールが必要で、NT 4.0 には管理ツールというグループがあります。管理ツールとしては、NT 診断プログラム、イベントビューア、ディスクアドミニストレータ、バックアップ、パフォーマンスマニタ、ユーザマネージャ、リモートアクセス管理などがあります。この機能は、NT 3.51 にもあったもので、ほとんど変わりありません。

アプリケーションを使うためのインターフェース（API）の一つとして、TAPI があります。TAPI は「Te l e p h o n y A P I」の略称で、電話を使うための API です。この API はアプリケーションで電話回線を使うためのもので、基本的には Win 95 のダイヤルアップネットワークとほぼ同じ物となっています。新しいダイヤルアップネットワークの特徴は、接続後の状況（モニタ）表示がわかりやすく細かくなっている点にあります。

その他に Win 95 と同様に NT 4.0 にも便利なショートカットキーが用意してあります。ショートカットにはシステムが初めから持っているものとショートカットとして設定するものがありますが、ショートカットに起動するキーを登録すると、マウスで操作するよりも数倍早く起動する事ができるようになります。

以上のように、Windows 3.1 にそっくりだった NT 3.51 から、Win 95 にそっくりとなった NT 4.0 となり、いろいろと問題は含みながらも魅力あるものとなった NT 4.0 ですが、セキュリティの面などからネットワーク OS としてばかりではなく、クライアント用の OS として選択肢の最有力な物となったという事ができると考えられます。

(情報誌トピックス)

○日経コンピュータ 3月31日号

特集 破綻寸前のパソコン運用管理

→大量に導入されはじめたパソコンを運用する手間と費用は並大抵ではなくなっている。トラブル対策、対応する組織作り、開発体制作りなどの地道な対策の積み重ねが運用負担を減らす。

特集 情報洪水を解消する P u s h 技術

→P u s h 技術は、自分の必要な情報をユーザがW W W サーバなどから探し出すのではなく、情報源を登録しておく事によって、サーバにある最新情報をユーザ側のデスクトップ環境に直接送り届ける仕組みで、スクリーン上に電光掲示板のように表示したりする事ができる。

トレンド イントラネット対応進む全文検索システム

→複数サーバのH T M L 文書をカバーし、イントラネット対応が進んでいるパソコンの寿命は2年、長期レンタルに脚光

→法定耐用年数が実際の寿命と合っていないため、契約期間を気にせず更新が可能な長期レンタルに注目が集まっている

システム 2 0 0 0 年まで1 0 0 6 日

→保守・アウトソーシング契約では2 0 0 0 年対策は対象外。法律専門家が解釈示す。但し、2 0 0 0 年対応が当然なされているべきと考えられる場合は対象。

○日経コンピュータ 3月24日号

特集 個人放送局がインターネットに咲く

→映像・音声の配信にインターネットを用いた個人の放送が可能となってきた。データ圧縮技術と配信技術が発達し、10万円で個人放送局が可能となってきた。

解説 P e n t i u m II がベールを脱ぐ

→次世代C P U K 1 a m a t h がP e n t i u m II として発表された。P e n t i u m P r o の廉価版としての位置づけで、16ビットコード処理を高速化し、家庭用パソコンへの普及を図る

マルチメディアを軸る テクノロジが開く障害者の未来

→マルチメディアとディスアビリティ

マルチメディアは、健常者のためだけではなく、障害者のためにも有効な役目を果たす

○日経パソコン 3月24日号

特集 ノート型パソコンを使おう

ハイエンドからサブノートまで28機種を徹底比較

特集 パソコン実売価格97年春季編

M M X 2 0 0 H z 機は高値スタート。

ノート型、150M H z で30万円切る

レポート パソコンをもっと便利にする C D - R O M 辞書・事典の選び方使い方

→ 1万円程度で買えるようになった日本語版の百科事典から国語辞典まで
トレンド メディアプロセッサはパソコンを変えるか
→ パソコンのマルチメディア機能を1つのチップで処理するメディアプロセッサ（三菱はD30V）が発表されているが、メーカーは採用に慎重

○ 日経バイト 4月号

特集 Macintosh 生き残りの条件
→ Windowsに対抗する勢力として立場を維持してきたAppleの今後について、OS面、Mac互換機を含めたCHRP仕様の行方、PowerPCプロセッサの今後について特集
ニュース 1000ドルPCが登場、家庭の2台目需要を掘り起こす
→ アメリカは一家に1台から1人1台へ
トレンド 新しい“本”的模索始まる 日本語PDFが台風の目に
→ Acrobatというソフトは、同一の文書をWWW、CD-ROM、電子メールなど多様な流通経路を通して配布する事ができるが、このフォーマットによる新しい“本”的流通が実験されはじめている
レビュー 1.44MバイトFDD代替の有力候補 課題は低いアクセス性能
120MバイトFDD LS-120
→ ディスク統括事業部で生産しているLS-120、Win95のOSR2でサポートされ今後に期待

○ ASCII 4月号

特集 MMX完全ガイド！
→ MMXとは？から製品ガイドまで
特集 速習””Office97活用のキモ
→ Office97の活用ポイントの紹介
注 22ページ広告特集あり

○ SUPER ASCII 4月号

特集 Windows95パワーアップ完全ガイド
→ バージョンから個別の強化方法まで
スペシャル OSR2のデバイスサポートを検証する

○ DOS/V:magazine 4月1日号

特集 実践！インターネットワーキング
→ OCNのスタートによって始まるインターネットを使ったワーキングについて、メールソフト、Telnetなどのインターネットツールなどの特集
特集 「検証！ザ・スタンダード」～MIDI編
→ 基礎知識から製品カタログまで